



## がんの早期発見を目指して

日本人の3人に1人は「がん」で亡くなっています。

村ではがんによる死亡が全体の2割を占め、検診で発見可能ながんはそのうちの半数です。がんの死亡率を少しでも減らすには早期発見・早期治療が欠かせないといわれていますが、同じ早期発見でも、検診でがんを発見したの方が検診以外で発見した方より生存率が高いそうです。

### がん検診の目的

がん検診の目的は、多くのがんを見つけることではなく、がんを早期に発見し、適切な治療を行うことで、がんによる死亡率を減少させることです。早期に発見できれば、治療の選択肢も多く、治療後における予後も良好で、QOL（生活の質）の維持も図りやすいといわれています。無症状のうちにがんを早期に発見するために、がん検診に関する正しい知識を持ち、がん検診を受診しましょう。

また、「要精検」と判断された場合には、精密検査を受診することが必要です。受診し「異常なし、または良性の病変」と診断された時は次回の検診へ。「がん」と判定された場合は、治療へ進むことが、がん検診の流れです。途中で精密検査や治療を受けない場合は、がん検診の効果はなくなってしまいます。

### がん検診のメリットとデメリット

がん検診の最大のメリットは、早期発見によりがんの死亡率が減少することです。また、がん患者さんのQOL（生活の質）の向上・医療費の軽減などがあげられます。

一方で、検診や精密検査に伴う合併症や、がんがないにもかかわらず、がんがあるかもしれないと診断されるなど身体的・心理的・経済的な負担が大きくなるというデメリットもあります。

### 早期発見に有効ながん検診

検診の目的は、特定の病気を早期発見・早期治療することです。がんを大事に至らないうちに発見して適切な治療につなげれば、治る可能性が高いというのが基本的な考え方です。何らかの症状が出て受診するのは診療です。検診ではありません。検診は、自分は健康だと思っている方を対象に、がんなどの特定の病気そのものを見つけようとするものです。

がんは遺伝子に傷ができて発生します。ごくごく小さなものが、10～30年経過しながら大きくなり発病します。しかし、発病時点では自覚症状がありません。この時期にがんを見つけるために受けるのが「がん検診」です。

進行がゆっくりで症状発見までの期間が長いのが、胃がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん、タバコを吸っていない人がかかる肺がんなどです。これらのがんは、症状発見までの期間がだいたい3～4年あるので、定期的ながん検診を受けていれば、症状が出る前のどこかで発見できます。

## 「世界禁煙デー・禁煙週間」について

喫煙はがん、循環器疾患、呼吸器疾患などの生活習慣病の重要な危険因子があり、喫煙者だけでなく、周りの非喫煙者にも影響を及ぼします。

そのため、世界保健機構（WHO）は平成元年から、毎年5月31日は“世界禁煙デー”、わが国では平成4年より5月31日からの7日間を「禁煙週間」としています。今年度は、受動喫煙による健康への悪影響から人々を守ることを目的として、「2020年、受動喫煙のない社会を目指して～たばこの煙から子ども達をまもろう～」を禁煙週間のテーマにしています。

喫煙している方は、これを機に禁煙を始めましょう！

また、周りに喫煙している方がいれば、ぜひ禁煙を勧めてみましょう！

